

地域社会と共に

事業を発展・継続していくためには、地域社会の皆さまのご理解とご支援が欠かせません。こうした考えの下、横浜ゴムの国内全8生産事業所では、それぞれ独自に地域との交流活動を展開しています。また海外の横浜ゴムグループ会社でも、地域の事情に応じた社会貢献活動を実施しています。

地域コミュニケーション

近隣自治会員や住民を招いた工場見学会や懇親会を開催しているほか、地域住民や従業員家族を招いての工場まつりも開いています。市町村とのコミュニケーション向上にも積極的に取り組んでおり、2006年4月には、南雲忠信横浜ゴム社長が平塚市の大蔵律子市長を表敬訪問しました。



ふれあいまつり(長野工場)



大蔵律子平塚市長(左から2人目)と南雲忠信横浜ゴム社長(右から2人目)

地域行事への参加

市町村の呼び掛けに応じ、各生産事業所の従業員が地域の清掃活動に参加しています。2005年度は、三重工場、三島工場、平塚東工場、長野工場が清掃活動を行いました。また新城工場では、新城警察署の秋の交通安全運動に協力し、従業員が一日婦警を務めました。



勢田川をきれいにする七夕大掃除(三重工場)



一日婦警を務め先頭を歩く女性従業員(新城工場)

教育の支援

地元の中学、高校の依頼を受け、教育の一環として職場体験や環境教育の実施、また実技講習会の講師を務めています。2005年度は、三島工場が、中学生や小学生を受け入れました。三重工場では、地元工業高校生徒のボイラー実技講習会を引き受け、会場を提供したほか、従業員が講師を務めました。



三島北中学校の体験学習の様相(三島工場、写真左、右)



ユニークな自主活動

平塚製造所では、地区の防災先進企業の1社として、事故や災害で心肺停止状態に陥った人を応急手当するための「心肺蘇生法」を学習することとし、今年9月までに全所員が講習を受けました。長野工場では構内で採れるりんごを、近隣住民や障害者施設に寄贈しています。



「心肺蘇生法」の講習風景(平塚製造所)



りんごの収穫(長野工場)

地域住民や学生に施設を開放

構内の広場、体育館、テニスコートなどを、地元の住民や学生、消防関係者などに開放しています。尾道工場、新城工場には、使用済みタイヤで作った恐竜を飾った広場を設けています。尾道工場の「恐竜公園」は地元住民の憩いの場として定着し、来園者は年間1,700名(2005年度)を超えました。



テニスコートの開放(平塚製造所の社員寮施設)



「恐竜公園」(尾道工場)

横浜ゴムとしての社会貢献活動

■ 国連世界食料計画に協賛

紛争などの人為的災害、干ばつなどの自然災害で死に直面する世界の人たちを救うため、国連が呼び掛けた食糧援助計画に協賛しています。

■ 「みなと環境にやさしい事業者会議」

東京都港区に本社を置く横浜ゴムでは、港区が区内に所在する事業者呼び掛けで組織した「みなと環境にやさしい事業者会議」のメンバーになっています。

データ (8生産事業所合計:2005年度 単位:人)

施設利用者数	3,599
献血協力者数	557
工場周辺清掃参加者数	1,659
工場見学者数	2,684
教育支援者数	229

8生産事業所は、平塚製造所、三重工場、三島工場、新城工場、茨城工場、尾道工場、平塚東工場、長野工場

ヨコハマタイヤ フィリピンの環境貢献活動

2000年に「ISO14001」を取得した乗用車用タイヤの生産販売会社「ヨコハマタイヤ フィリピン」は、フィリピンの先進的環境経営企業の1社として、多様な環境貢献、社会貢献活動を展開しています。

■ リサイクルイベントを支援

同社は地区の環境従業者協会(EPA)の有力メンバーとなっており、2005年~2006年にかけてEPAの副代表を務めました。今年6月には、EPAメンバーとして地元で開催されたリサイクルイベントを支援。また、6月の環境月間には「環境行進」にも参加しました。



今年6月に開催されたリサイクルイベントの様様



今年6月の環境月間に政府関係者と共に行った「環境行進」

■ 植樹運動に参加

同社工場が所在するクラーク特別経済区にあるフィリピン博覧会クリークサイド地域に、マカボニー1,000本を植樹する運動に参加しています。



■ EMS & 5Sセミナーを開催

同社の「EMS & 5S」グループは、地元高校や大学でEMS(環境マネジメントシステム)や5Sの啓発セミナーを開催しています。また同社でのEMS、5S定着状況を見学しに、地元の企業や政府関係者が多数訪問しています。



EMS & 5Sセミナーに参加した地元学校の生徒